

【出題形式・方針】

全問題をマーク式で出題しており、設問形式には空所補充と下線部に関する問い合わせを中心に据えている。2~3か所の空欄に語句を入れる組み合わせ問題を取り入れるほか、語句選択、4文の正誤判定、2文の正誤組み合わせ、年代整序など、設問形式の幅を広げ、受験生の多面的な理解力を測る構成としている。

年代感覚の定着を重視し、出来事の時期や王朝の継続期間、年号そのものに関する問題を毎回取り入れている。地域構成については、西洋史と東洋史をそれぞれ1題ずつ設定することを基本とし、西洋史ではヨーロッパ・アメリカ合衆国を中心しつつ、オセアニアやラテンアメリカにも視野を広げている。東洋史では中国を中心に、朝鮮・インド・東南アジア・イスラーム世界などにも広く目を向けている。

対象とする時代は先史から現代まで世界史の全時代であり、幅広い知識と理解力を求めている。分野としては政治史を中心に据えつつ、文化史も重要な領域と捉えている。